

1. 講義内容全般に関してどうでしたか？

〈良い点〉

- そもそも「環境論」を扱う講座があまりないので、この講座が開講されていること自体に大きな意義があると思う。総合的には、大変満足している。
- シラバスとの相違が少なく、楽しい授業だった。
- PDCA サイクルを中心に一連の作業の流れに沿って進めていたので理解しやすかった。
- 作業が多くて、単なる講義だけよりも楽しかったし、わかりやすかった。
- 参加型の授業で楽しかった。(2)
- ISO14001 の取得方法に関しては、全く知らなかったのが貴重な授業だった。(2)
- 授業の進め方が明確で、流れも理解しやすいように工夫されていた。
- 内容は実践的で面白かった。
- ISO14001 だけでなく、心理学や他国の環境姿勢など、ISO 以外のことも教えていただいたので、思っていた以上に幅広く学べた。
- もっと、経済的・経営的なビジネスライクなものをイメージしていたが、授業はとても興味深かった。

〈改善点〉

- 割と知っていることが多かったので、もう少し突っ込んだ内容でも良かったと思う。

2. 配布資料や投影資料などはどうでしたか？

〈良い点〉

- フライブルクの写真
- 要点がまとめられており、わかりやすい構成だった。(3)
- 1日ごとにまとめてあって、使いやすかった。
- 色も適度に使われていて、見やすかった。
- 図表が非常にわかりやすかった。
- 少し量が多かったが、無駄なものはない。
- パワーポイントの室が高い

〈改善点〉

- 量が多いので、できればWEB 配布していただけると、個人での資料管理がより楽になるのではないかと思います。
- 授業に必要な分として適切な量であったが、もっと、たくさんの参考資料があっても良かった。
- 教科書と全く同じものが配布資料に使われていたので、授業用に作り直すべきではないかと思います。
- クリップアートが多すぎる感がある。
- 少しわかりづらかった。  
→ そもそも難しい内容なので、パワーポイントは簡単に、資料は詳しくしたら良いかもしれない。

3. 講義の時間管理に関してどうでしたか？

〈良い点〉

- 必ず5分前にはいらっしやるその姿勢を見習い、自分も時間管理をしっかりしていきたい。(4)
- 時間通りに始まるのが素晴らしい。大学教授とはえらい違いである。(2)
- 授業の枠にとらわれすぎず、柔軟に対応できていた。(2)
- 2限目から始まるのが良かった。
- 疲れているときは休憩をとっていたので、良かった。

- 授業が始まる前から準備してくださっていたので、時間が有効に使えたと思う。

〈改善点〉

- 時たま、休憩時間に入っても、実質、ワークを続けなければならないケースがあったので少し疲れた。(私のグループの進行が遅かっただけかもしれない)

#### 4. 話し方や話すスピードはどうでしたか？

〈良い点〉

- 小講義教室、少人数でのレクチャーだけあって、声も聴きやすく、また適切な速さだった。(3)
- さすが、話し慣れている方は違うな、と思った。私も見習いたい。(2)
- メモを取るのにちょうど良いスピードだった。
- 後ろのほうの席だったが、ちゃんと聴こえた。(2)
- 適度な関西弁が、講義にやわらかさを与えていた。(2)
- 親しみのある話し方だったので、聞きやすかった。

〈改善点〉

- 関西弁なので、慣れていない人にはつらかったかもしれない。
- たまに、聞こえづらい時があった。(4)
- 穏やかな話し方なので、悪く言えば強弱がないと感じた。
- 肝心のギャグは関西弁に慣れていないので、聞き取れないことがほとんどだった。
- もっとギャグを言っても良いと思う。笑いがあれば授業も和む。

#### 5. 講義内ワークや提出課題に関してどうでしたか？

〈良い点〉

- 講義を聞くばかりだと、どうしてもだれてしまうので、ワークショップも必要だと思った。
- 必要な作業を適切な手順で行うことは重要だと思うし、実践することはただ聞くだけよりも吸収力があるので、今回のワークや課題は良かった。(2)
- たくさんのワーク作業やアウトプットがある分、講義に集中できた。(2)
- 少し多い感じがしたが、習得するには適切な量だったと思う。(2)
- 授業内容が難しいので、少し大変なほうがちょうど良い。
- 少し多いと感じたが、自分のためになるもので、無駄なものはなかった。
- ワークに時間をたっぷり当ててくれたので苦にはならなかった。
- ワークを講義内だけで終わらせる形をとっているのは非常に良かった。

〈改善点〉

- 回答のわからないところがあったためだが、私にとってはやや負担があった。
- 個々のワークに意義があることは理解しているが、もう少し量を減らすと、その分1つのワークに深く取り組めると思う。
- 固定チームではなく、もっと色々な人と話したかった。
- 内容としては適切だと感じたが、一つ一つの課題に時間を割きすぎているように感じた。
- もっと講義に時間を割いても良いと思う。

〈その他〉

- おそらくワークや課題の数が多いというよりは、それに時間がかかるため「多すぎる」と感じるのだろう。

#### 6. 担当講師が、もし別の専門科目を担当すれば受講しようと思えますか？

- 今までの集中授業の中でも一番楽しく学べたので、また受講したい。
- 小野木先生の人間性に惹かれる
- 科目による
- グループワーク中心の授業だったら受講したい。

- 私自身、歴史的な観点からの米国政治といった、おそらく全く分野の異なるものを専門に研究しているため、趣味・一般教養としての受講になると思うが、時間が合えば受講したいと思う。
- 講師の雰囲気を受講基準として非常に大切だと思うので、ガイダンスには必ず出ると思う。
- 環境問題を抜きにして、「経営論」の授業でも面白そうだ。(3)
- 小野木先生のほかの環境系の授業にも出てみたい。
- 環境経営論をもっと詳しく勉強してみたい。
- 今回のような少人数制の授業であれば受講したい。

7. 講師としての評価ランクを付けるとすれば、どうなりますか？

〈良い点〉

- 褒めちぎるわけではないが、今まで受講した授業の教授に比べて話し方の上手さと授業に対する姿勢のバランスが取れており、学生にとっては非常に良い先生だった。
  - 今までの先生は考えはしっかりしていても、話が単調だったり、一方的だったりして話し下手な教授が多かったため。
- 今まで、集中授業には4度参加したが、一番時間の使い方、教え方が良かった。是非、定期の授業を持ってほしい。
- 東京外大の教授の中では、小野木先生は人気があると思う。
- 参加者全員が授業に参加しやすい形がとられていることが、とてもうれしかった。
- 綿密に計画された授業構成、手間をかけて作成されたプリントなど、知識のない受講者を配慮したセッションは非常に好感が持てた。(2)
- 講義の構成や内容は非常に良かったし、わかりやすかった。(2)
- 授業時間を守り、学生に課題を与え、講師を評価させるなど、講師としての職務を十二分に果たしている。
- 冗談がすべることもあるが、雰囲気を和ませる効果はある。
- パソコンを使いこなしていることも評価が高い。
- 説明－ワークシート－解説のバランスが非常に良かった。
- 学生一人一人への配慮がしっかりされている印象を受けた。

〈改善点〉

- 優しすぎて逆に不安になるので、もっと強く言っても良いと思う。
- 授業のテンポが一定で、眠気を誘う原因になったと思う。

〈その他〉

- 僕は辛口なので「良」をつけたが、普通の人であれば「優」をつけると思う。

8. 上記以外で、是非改善した方が良いと思うことを、改善案と共にアドバイスして下さい。

〈授業内容について〉

- もっと厳しくても良いと思う。
- 授業が始まる前に、その日の授業内容のアウトラインをざっと話したほうが良いと思う。
- グループディスカッションだけでなく、クラス全体でディスカッションを行えば面白いと思う。
- 環境経営のコンサルティング経験による事例が聞きたかった。

〈ワークショップについて〉

- データなどができるだけ具体的なほうがわかりやすい。
- 毎回、同じグループでワークしている場合、段々と打ち解けてくるのは良いが、ネタにつまり、マンネリ化したアイデアしか出てこなくなることがあるため、途中でグループ変更したら良いと思う。(2)
- 集中講義という性質上、授業のコマが連続していて、やや間延びした印象を受けた。ワークはコマをまたがずに行えば、改善するのではないだろうか。

〈プリントについて〉

- 環境経営論は漠然としたテーマの授業なので、もっとたくさんの参考資料を使用したほうが、目的や内容がはっきりすると思う。
- 講義はどうしても眠くなってしまうので、配布するレジメを空欄だらけにするというのはどうだろうか？

→ 少し時間はかかるが、一度書き写すことで頭にも入りやすいし、緊張感が増すと思う。

〈テキストについて〉

- テキストが高かったので、学生割引があれば良い。(2)
- 教科書の要・不要をはっきりさせたほうがよい。
- パワーポイント資料がわかりやすかったので、テキストはあまり使わなくてもできた。

〈アンケートについて〉

- 毎日の授業アンケートで、選択肢がタイプ別に分かれていなかったのが、評価しづらかった。
- 若干アンケートの選択肢がプラスにあたる表現が多かったように思う。

9. 更に続けていった方が良いと思われる良かった点を、具体的に記載して下さい。

- 演習形式（グループワーク）の授業。積極的に授業に参加できることはとても良い。(10)
- ブレインストーミングなどを活用したペアワークは新たな視点を見つけ出す上で大変効果的だった。
- 東京外国語大学を例に、EMS 構築に向けた様々なプリントを作成することは、実際の ISO14001 取得時の流れを身をもって体験する良い機会となった。(2)
- この講師評価の取り組みも素晴らしいアイデアだと思う。
- プロジェクターと黒板を使い分けながら行う授業スタイル
- 細かい質問タイム
  - 質問はなくても、その時間でそれまでの話を整理することができるため
- ディスカッション形式の授業スタイル
- 授業アンケート(2)
  - 講師が自ら授業の改善を目指そうとする態度が表れている。
- コミュニケーションの方法やブレインストーミングなど、日常生活の中でも応用できそうな技術。
- わかりやすいパワーポイント資料(4)
  - 板書を書き写すより、時間が省けて効果的
- 念入りなワード資料
- 最初に授業の進め方を説明する点
- 集中力が切れそうなときに休憩を挟む点(2)
- 積極的に意見を出し合える雰囲気作り(2)
- 少人数制の授業形態

10. あなたが理想とする講師像、あるいは専門科目の授業方法とは、どのようなものですか？具体的に記載して下さい。

〈理想的な講師像〉

- 自分と同じ分野に興味を持っており、かつその分野の知識が豊富でいて、それを上手く生徒に伝えられる講師
- 豊富な知識を活用して、門外漢の生徒に、その分野に対する興味をわかせることができる力を持つ講師
- 「笑いの心得」があって、自分と笑いのつぼが合う講師
  - 授業への意欲が向上するため
- 質問したときに返答がすぐ返ってき、わからなくても、後日調べてきて、明確な答えを提示してくれる講師
- 「教えよう」という意欲のある講師
- 知識が豊富で、質問に喜んで答えてくれる講師
- 学生から話しかけやすい講師
- 生徒に厳しすぎず、優しくすぎず、はきはきと話す人
- 学生の気持ちをわかってくれて、授業だけでなく、様々な話をしてくれて刺激を与えてくれる講師
- その科目のことを講師自身が愛している講師
- まだ至らぬ知識は素直に認めつつ、常に成長を目指している講師
- 学生に伝えることに生きがいを感じている講師
- 自分の考えを一方向的に話すだけでなく、生徒の目線に立って、生徒の考えを聞きつつ、間違いを正してくれるような、双方向な授業をしてくれる講師
- 時間の使い方が上手な講師

- 生徒が学んだことを具体的に皆の前で発表する場を設けてくれる講師
- 生徒の意見に対して、真剣に身を傾けてくれる講師
- 上手く、生徒から答え、考えを引き出す講師

(理想的な授業方法)

- Interactive & Interesting Class  
ディスカッションなどがあるインタラクティブな授業で、それでいて、知的好奇心をひかれるような授業が良い。  
→ 純粋な学者先生のクラスは「授業」というより、彼らの「発表会の場」みたいなものであることが多く、正直げんなりするため。
- 生徒同士、あるいはそこに講師も交じって、1つの課題に取り組み、それについて議論を深める小規模授業が理想的。
- 実際に東京外国語大学で ISO14001 認証を取得する授業。  
→ 集中講座では無理なので、通年の授業となり、ゼミ形式が良いと思う、取得成功すれば、共同卒業研究として十分だろう。
- 少し、難しいくらいの授業
- 一方的に自分の持つ知識を押し付けるのではなく、生徒に考えさせる授業
- 社会に出て役立つことを教えてもらいたい(2)
- 専門科目は難しくても良いが、単位はとりやすくしてほしい。
- 受身の授業ではなく、グループワークなどを含めた参加型の授業(2)
- 飽きさせない授業

1 1. 最後に、どんなことでも自由にコメントして下さい。

- 集中講義は性質上、とても疲れる授業形態だと思う。その中で、「毎日来よう！」というインセンティブを持たたのは、内容云々より、「仲間に迷惑をかけられない」という思いが強かったからだと思う。そういう意味でグループワークは大切だと思った。
- 僅か4日という短い期間だったが、今まで自分が全く知らなかった事柄に触れることができた。環境経営論以外にも、「心理分析」や「社会人としてのマナー」など、参考になるところが多々あり、今後自分が生活していく上での1つの糧となったことは間違いない。
- 初日から自分の知らないことがたくさん出てきたので、圧倒される面もあったが、解説や資料がわかりやすく助かった。
- 時々見せる「関西っばいのり」が大好きだった。  
→ 周りが笑わないので、声を出して笑えなかったが、心の中では爆笑だった。
- 「環境心理」や「経営心理」など、心理的な側面について授業を何コマか割いて聴きたかった。
- 時々発せられる小野木先生のギャグがおもしろくて思わず笑みがこぼれてしまいました。
- 結局、「心理」のところは環境とどう結びついているのかわからなかった。
- 今回で環境経営論の勉強を終わりにするのではなく、教科書を使って自分で勉強を続けていきたいと思う。
- 環境に関する他のアプローチの仕方も学びたい。
- 今後、自分でも発言を課していこうと感じた。そういう前向きな姿勢への転換時期に小野木先生の授業を受けて、いくらか発言のチャンスを得ることができ、良かった。
- 小野木先生は、とても気さくで親近感のわく人柄だったのでとても楽しく学べた。
- 授業のテーマからして、話を聞くばかりの重たい内容だと思っていたが、実践やディスカッションが多くて、4日間があっという間だった。
- 小野木先生みたいな人が大学に増えてくれれば、大学も変わると思う。  
→ 古い慣習にとらわれた教授が多いため。
- ただ知識だけではなく、社会の一面が見ることができたような気がして、とても興味深い講義だった。